

2013年度 定期総会を 開催

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京の2013年度定期総会が、東京YMCA東陽町センター視聴覚室で開催されました。

第1部で昨年度にご協賛・ご協力をいただいた企業・団体の方々に感謝状をお贈りした後、第2部の2013年度定期総会では、2012年度の事業報告・決算報告をはじめ2013年度の活動方針及び活動計画、活動予算などが承認されました。任期満了に伴う役員の変更では、新任役員8名が選任され、その後の理事会にて岡



2013年度役員

松武司が新理事長、杉田秀男と湯浅泉が新副理事長に、また安田準が引き続き専務理事に選任されました。

第3部では、退任役員・委員長への感謝状、各委員長に委嘱状が授与されました。

さらに、この日は定期総会終了後、同会場にて

「2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン」の報告会も行われました。



感謝状贈呈

新理事長に就任して

岡松武司



この度、池田前理事長の後任として、私が理事長をお引き受けすることになりました。

これまでSON・東京の運営に、大きな使命感と熱意をもって携わってこられた多くの方々の志とご努力を引き継ぎ、アスリート、ファミリー、ボランティアの皆様と一体となって、ますますの

発展と充実に全力をつくす所存です。

SON・東京は、2014年10月に設立20周年を迎えます。20周年に向けて、今年度から、「SO活動の社会的認知度の向上」「組織力の強化」「スポーツ・文化プログラムの充実」「ボランティアや支援者の皆様との絆の強化・拡大」等の重要課題に、積極的に取り組んでいくことにいたします。

皆様とできる限りの情報の共有化に努め、組織が一体となって、総力を結集して取り組み、輝かしい20周年を迎えたいと思っております。皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

- 新任役員/阿部祐子、遠藤有子、落合信二、清原れい子、白岩洋子、田島玲子、前島伸行、山崎多美子
 - 退任役員/池田朝彦、池田裕一、上田邦俊、梅村郁、監物永三、近野博、諏訪なほみ、田窪貞夫、中村正弘、秦政、日野一男、日野君子
- 永年にわたりSON・東京の役員としてご尽力を賜り、心より感謝申し上げます



2013年スペシャルオリンピックス 冬季世界大会・ピョンチャン 開催 1/29～2/5

10回目を迎えたスペシャルオリンピックス冬季世界大会は、韓国のピョンチャン(平昌)、カンヌン(江陵)で、世界の111の国と地域から3,000名以上の選手団が参加して行われました。

種目は、アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリー、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケーの7競技です。

日本選手団は、有森裕子団長以下アスリート59名とコーチ・役員25名。SON・東京からは4名のアスリートと3名のコーチが参加して、世界の舞台で日ごろの練習の成果を発揮しました。アルペンスキーのカテゴリー2のスラロームなど3種目に出場した松村重尚さんは、金・銀・銅メダル、

金子慎吾さんは銅・4位・6位、フィギュアスケートのレベル1に出場の橋本隼人さんは銅メダル、ショートトラックスピードスケートのカテゴリー3

の500mなど3種目に出場した近藤瑞穂さんは銀・銀・銅メダルと活躍しました。



橋本さん(右から2人目)

アルペンスキー コース確認



開会式 入場行進

© Special Olympics Nippon

参加者の感想 2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン

【開会式・閉会式】

■スノーシューイングコーチ 朝岡美好

式典全体で感じられたのは、韓国の今大会にかける熱意でした。開会式には李明博大統領、アウン・サン・スーチー氏といった方々が出席。フロアいっぱいにステージが設けられ、時代劇風の神輿行列や華やかな群舞、アイスダンス、韓国伝統舞踊などが、華やかな舞台セットとともに繰り広げられました。また、閉会式はキム・ヨナとミシェル・クワンのスケートティングやK-POPアーティスト3グループのパフォーマンスなどで盛り上がりました。

大会前の活動を通じ、韓国におけるSOの認知度は70%まで向上したそうですし、大会中は連日テレビでも報道されていたようです。ボランティア人数も多く、寒い会場でも暖かく過ごせるよう配慮されていましたし、多くの方が日本語で話しかけてくれました。運営面の不備もありますが、主催者の思いが伝わった大会でした。

【フィギュアスケート】

■ヘッドコーチ 日向野美峯

今大会は予選がなく、コンパルソリー、フリー共に本選のみの一発勝負、さらにはコンパルソリーとフリーでは会場が変わり、氷の感触も変わってくるのでアスリートには厳しい条件での試合になるのではないかと考えていました。また事前に、緊張しやすいアスリートが多いと聞いていたので、いかに直前の緊張感をほぐすかに重点をおき、アスリートたちとたくさん楽しい話をするように心がけました。

しかし、コーチのそんな心配をよそに、アスリートたちは確実に自分の力を発揮し、練習以上の出来を見せてくれました。競技が終わった後に、アスリートたちから「満足です!」「楽しかった!」などの声が聞けて、本当に嬉しく思いました。これを1つのきっかけに、アスリートたちにはこれからもどんどん成長して欲しいなと思います!

■アスリート 橋本隼人

ほくは、フィギュアスケートでぐるみ割り人形をすべりました。ずっとフリーのことばかりかかっていた。すごくきんちょうしました。くるっとターン、できました。広いリンクで、

楽しくすべりました。銅メダルがもらえてよかったです。また、世界大会に参加してメダル取りたいです。

【ショートトラックスピードスケート】

■コーチ 高橋麻里

ショートトラックスピードスケートは男性4名女性3名計7名のアスリートが参加し、それぞれが2~3種目にエントリーしていたため、毎日休みなく競技が続きしました。近藤さんは、222m、333m、500mに出場し、全てでメダルを獲得するというすばらしい成績をおさめました。その舞台裏では、初めての世界大会に緊張し涙したり、不安で眠れなかったり、喜びや悔しさを国内外の仲間と分かち合う姿がありました。

私にとって初めての世界大会は、まさに“スペシャル”な経験でした。半年間という短い間でしたが、合宿や大会を通して彼らの思いや努力を共有してきたコーチとして、全員が金メダルだと思っています。またこの感動を味わえることを楽しみにしています。

■アスリート 近藤瑞穂

初めて世界大会に参加しましたが、他の国のアスリートや韓国のボランティアさんとピンパッチの交換やプレゼントの交換をして仲良くなったことがうれしかったです。みんなとても優しくかったです。スタートは緊張しましたが、メダルが取れてうれしかったです。

【アルペンスキー】

■アスリート 金子慎吾

韓国ソウル大学でねとまりをしました。馬を見にいきました。民族館を見に行きました。ソウルの焼肉屋さんへお昼食にいきました。おいしかったです。スキーのグレンデはすべりやすくおもいきりすべれました。大会に参加してよかったです。もっとすべる練習をしたいです。

■ファミリー 金子登喜雄

年末年始の休みもなく、週1回の休みだけで働き続けた息子・慎吾の体調を心配しながら送り出した世界大会でしたが、大きく体調を崩すこともなく、すべての競技を無事滑り終えてくれたことに、今はただただ安堵し感動し感謝し、譲える気持ち

ちでいっぱいです。

多くの関係者の活躍を目の当たりにし、大会の規模に圧倒され、どれだけ多くの人達に支えられていることかと、改めて考えさせられました。同時に、大会が集大成ではなく通過点であり節目であること。反省すべき点は反省し、今後も続く日常プログラムを楽しく、気持ちよく参加できるものにしていかなくてはと、ファミリー・ボランティアとして強く感じました。親子で貴重な体験をさせていただいたことを心から感謝いたします。

■アスリート 松村重尚

ホストタウンプログラムはソウルの高麗大学に行きました。コンサートでバイオリンを聞きました。グランドでみんなと体操をしました。1月30日からコンピションスキーリゾートですべりました。青赤青赤のはたをじゅんばんにすべてゴールしました。こわかったです。寒かったです。表しよう式でメダルをもらいました。世界大会は楽しかったです。また行きたいです。

■ファミリー 松村恵子

アルペンスキーの日本選手団は、スーパージャイアントスラローム、ジャイアントスラローム、スラロームの3種目に出場。いずれの種目でも、ゴールエリアから出てファミリーを見つけた彼らは、ハイタッチをしたり言葉をお互いに、とても誇らしげでした。またファミリーたちは、スキー場にあるホテルで開かれたファミリー・レセプションでの温かいおもてなし料理と民族舞踊で、存分に楽しむこともできました。

出発前は、日韓問題に多少の不安がありました。現地ではそんなことなどすっかり忘れてしまうほど、皆友好的。特にボランティアの学生さんたちは、上手な日本語で声をかけてくれて、話が弾みました。多くの方々のサポートとともに世界大会に参加させていただいたことを、深く感謝しています。



SON-東京選手団



© Special Olympics Nippon 橋本さん



© Special Olympics Nippon 松村さん



© Special Olympics Nippon 近藤さん



日向野さん(結団式で)



朝岡さん(結団式で)



高橋さん



金子さん

ファミリー委員会ご紹介 2013年度ファミリー委員長 島田文人

スペシャルオリンピックスでは、アスリートの親(家族)とは受益者の位置付けになりますが、その親(家族)が組織的に活動を行うことでファミリーという位置付けになります。ファミリーはSOを支える3本の柱の1つとして積極的な参加が期待されています。ファミリー委員会では、このファミリーを丸として前向きに活動を行ってまいります。

【本年度のテーマ】

- ①ファミリーとしての参加意識向上
- ②プログラムの安全確保

ファミリー委員会では前向きなフリーディスカッションで議論を進めてまいります。多くの方に参加いただき、SON・東京を前向きに支えていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



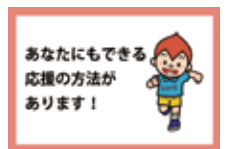
ファミリー委員会の月例会

知っていましたか? お買い物するだけで寄付できるんです!

ネットショッピングを楽しんでいる皆さん! これからはぜひSON・東京のホームページを経由して、お買い物してください。そうすれば、あなたのお買い物代金の一部(3~5%)が、SON・東京への寄付金になるんです! 昨年度は約4万円でした。今年度は目標50万円です!

このページから、お目当てのショッピング・サイト(amazonやドミノピザ、itunesなどがあります)に入って、お買い物。あなたに負担や迷惑は、一切かかりません。さあ、やってみましょう。

みんなで年間寄付額50万円を目指して!!
※毎回必ず、SON・東京のサイトからアクセスして下さい。



この画像をクリック▶

http://www.son-tokyo.or.jp/support/support_link.html

**ご寄付を
ありがとうございます**

昨年11月26日(月)にSON・東京支援第7回チャリティゴルフ大会が、神奈川県程ヶ谷カントリー倶楽部で開催されました。当日は、生憎の天候となりましたが、130名近くの方にご参加いただき、心温まる大会の催しとなりました。同大会から、SON・東京の活動のために100万円を超えるご寄付をいただきました。なお、次回は、2013年10月28日(月)の開催を予定しています。

**WORKING
ATHLETES**

働くアスリートたち 第17回 木村 綾さん(25歳)

務にチャレンジしてきました。

3代目センター長の杉本文江さんは「だんだんとできる仕事が増えてきました」と話します。ラ・メゾンビジネスサポートセンターで行われているのは、福祉的な労働ではありません。会社に利益をもたらす業務を社内から受諾しています。利益を上げ続けるには、一人ひとりが成長し続けなければなりません。

おふたりから木村さんへ。「まず健康で。自立のためにはもう少し忍耐力をつけて、心も体も安定して仕事ができるように」(尾上さん)。「仕事はきちんと、プライベートはたくさん幸せが持てるよう、その切り替えができるように。同性として、素敵な女性になってほしいですね」(杉本さん)。

ぜひ、その期待に応えてください!
(バスケットボールプログラム代々木に参加)

コンサートで知られる東京オペラシティ。そのタワー棟に、木村綾さんが働く「サノフィ株式会社 ラ・メゾンビジネスサポートセンター」があります。会社の方たちは、SON・東京をコーチ、イベントのボランティアなどで応援してくださっています。

▶ 好きな仕事がいっぱいある

「サノフィ」は、フランスに本社がある医薬品及び医療機器の製造販売・輸入・研究などを行っている会社です。日本の社員は約3,000人。ラ・メゾンビジネスサポートセンターは、知的障害のある人たちの雇用を進めるため、人事・総務本部直轄の部署として、2009年4月に誕生しました。



真剣に仕事

木村さんは、レストランの厨房で働いた後、障害者就労支援センター「すきっぷ」に通い、職場実習を経て、2009年9月に入社しました。現在の仲間は9人。

パソコンを使った社員の名刺作成を軸に、資料などの印刷、データ入力、シュレッター、ダイレクトメールの封入作業などを通じて、サノフィのビジネスをサポートしています。

木村さんは、青鳥養護学校高等部でパソコンを学び、入社してから仕事に関連したワードとエクセルの使い方をジョブコーチに教えてもらいました。「好きな仕事はいっぱいあります。名刺作成とシュレッター、グッド・ジョブカード(感謝を伝えるカード)の集計と入力……。みんなで協力する仕事が好き。年金はがきの宛名確認や仕分けはあまり好きではありません。漢字を読むのは苦手です」。大変な仕事は、41~48階の部屋の室温を定期的に測定しに行くことだとか。

▶ 夢は、親離れ

木村さんの目標は「親離れ」です。「働き続けて、将来は独立したい。シェアハウスなどで、知らない人としゃべってみたい。まだ先のことだけれど」

メンバーは、同センターの立ち上げに関わり、現在も事務長として支える尾上昭隆さんに叱咤激励されて一進一退を繰り返しながら、さまざまな業



左から尾上さん、木村さん、杉本さん

アスリート：宮川星太郎さん 母：宮川るみさん

1歳半健診の日。名前を呼んでも振り向かないことで医師と話していると、後ろで職員が騒いでいます。壁のポスターが剥がれ、落ちている画紙の数が足りないと探しているのです。医師が星太郎を抱き上げると、口を開けた星太郎の舌の上にチョコント、画紙がありました。ギョツとしたもののその時の私は、それを自閉症という障害とは結びつけられずにいました。よく笑ったからです。

2歳の健診で医大の教授に診てもらおうと、「虐待してませんか?」。後になって怒りを覚えました。が、当時は素直に聞き入れました。「腕を大きく回して。ボールの上手投げがいいですよ」「何故いいのですか?」「普段しない動きだから。脳の使っていない部分を使うのです。猿にはできませんよ」。なるほど、猿よりは賢くしなきゃ。

3歳から自閉症の療育機関に通い、指導に従って毎日1時間以上歩き始めました。4歳の姉も1人にできず一緒に。星太郎は歩きたがらずしゃがみ込むばかり。体を動かすことでなんとか脳を使わせたくて、土砂降りの日も歩きました。

知識は人生を豊かにすると思ひ毎晩学習し、美術館に連れ出し、ピアノを習わせ、コンサートに出かけました。演奏を聴きながら2人でウ



星太郎はメダルの夢をみる



星太郎さんと母親のるみさん

宮川星太郎さん ● 1994年生まれ 2003年SON・東京入会 参加プログラム:陸上競技、バスケットボール、アルペンスキー、昨秋からボウリングに再登録

トウトすることもありますが、ある日ドビュッシーを耳にした星太郎が「これ弾く!」と言い出します。この夢ののちに、発表会で実現することができました。

スポーツも楽しんで欲しくてSON・東京に入会。希望したバスケットは9歳では難しいと、陸上を勧められます。その勧めが後に星太郎を変えました。当初は全く集団行動がとれず、競技場の砂をいじるばかりだった彼に、次第に競争心が芽生えたのです。

昨年のW&Rでは皇居1周に初挑戦。コース

がわかるか心配でしたが無事に、しかも予想より早く戻って来たので大いに褒めました。しかし本人はメダル圏内と思ったようで、自分の名前が呼ばれぬまま表彰式が終了したとたん、竹橋の地べたにひっくり返って全身で抗議しました。18歳189cmの体で。思わず他人のふりをしたものの、やがて仕方なく手招きしてなだめました。

それでも収まらない彼に、いつも指導して下さっている安田コーチが歩み寄り、穏やかに声をかけてくれました。「よく頑張ったね。4位は立派だよ」。すると言葉の理解の難しい子がスーッと落ち着きました。険しい表情が笑顔に変わったのです。メダルより、母より、コーチに認められたことが嬉しかったのでしょう。

ただ、負けた時の感情のコントロールは課題です。社会のルールを1つ1つ教えなければなりません。身体が大きくなってからも、郵便局の防犯用オレンジボールを弾むと思って床に投げつけ、郵便局中にインクを飛び散らせて母を泣かせました。バスケットでもルールの理解が課題ですが、皆様のご指導のおかげで全国大会のチームに参加するまでになりました。学校を卒業した今も、SOを楽しみに、星太郎は夢のある豊かな毎日をおくっています。

法人・団体・個人会員登録中

SON・東京の活動は、法人・団体および個人の皆様からの会費と寄付金によってまかなわれています。

正会員 入会金：5,000円 年会費：5,000円

賛助会員 (一口)年：3,000円～

郵便振込口座：00140-1-723232

※便利な口座振替をご用意しています。
※法人・団体会員については、事務局までお問い合わせください。

今後の予定

◎ 5月3日(金・祝)～5月5日(日・祝)

SON・熊本設立20周年記念全国水泳競技大会

◎ 5月12日(日)

ゼネラルオリエンテーション&アスリート理解/ボウリングコーチクリニック

◎ 5月25日(土)

SON・東京 第3回冬季地区大会

◎ 5月25日(土)～6月9日(日)

第14回東京都障害者スポーツ大会

◎ 6月22日(土)

半井清 チャリティボウリング

◎ 7月15日(月・祝)

SON・東京 第4回文化プログラム合同発表会

事務局新スタッフ紹介(経理担当)
～2013年1月から新しい職員が入りました～



美甘 美智子(みかも みちこ)と申します。皆様に支えられ力を頂き日々刺激を受け少しずつ成長させて頂いています。元気だけが取り柄! 明るさでがんばります。どうぞよろしくお願いたします。

SON・東京
オフィシャル
スポンサー

ThreeBond

UBS

citi

Deutsche Bank Group

富士ゼロックス東京株式会社

SSKR NEWS LETTER とらいあんぐる vol.59

発行所: 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

編集元: 認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京

編集人: 池田 朝彦

編集スタッフ: SON・東京広報委員会/石橋泰介(デザイン)

定価: 100円(代金は会費に含まれています)



認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京

〒135-0016 東京都江東区東陽2-2-20

東京YMCA東陽町センター内

TEL: 03-3615-5569

FAX: 03-3615-5581

E-mail: office@son-tokyo.or.jp

web: http://www.son-tokyo.or.jp

Update ↗

登録アスリート数: 1,379名

正会員数: 1,023名

(2013年2月28日現在)